



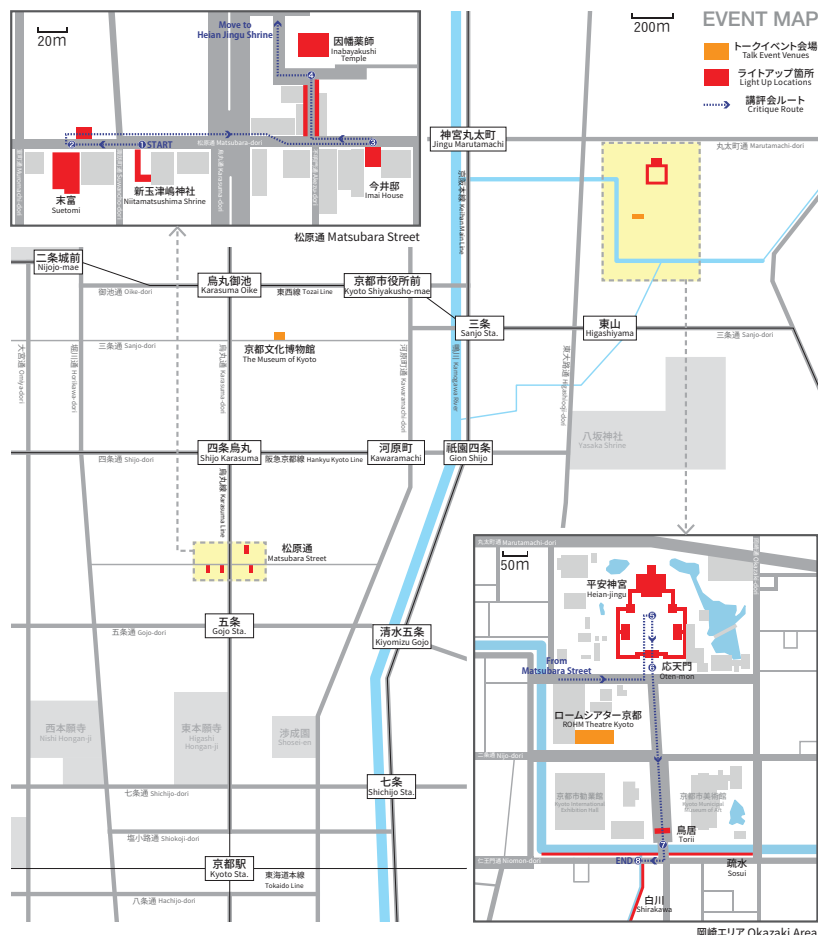
照明探偵団通信

vol. 81 Shomei Tanteidan Tsu-shin

第13回世界照明探偵団フォーラム2017 in 京都

2017.06.08-06.10

2002年からほぼ毎年世界のどこかの都市で開催している世界照明探偵団フォーラム。今年は日本の京都での開催とあってフルパワーで臨みました。



イベント開催マップ



平安神宮の下見



京都での学生を集めたキックオフの様子



京都造形大学での器具演習ワークショップの様子

2002年に東京で第1回を開催して、今回で13回目を迎える世界照明探偵団フォーラム。照明探偵団の発足の地である東京から世界の12都市を巡回したところで、再び日本に戻り、歴史の古い京都での開催が決定。京都市民や学生と、歴史と文化の街「京都の街あかり」を考えるフォーラムとなりました。3日間のフォーラムでは京都らしい明かりとは何かの議論を積み、京都の街あかりのプロポーザルを作成、仮設ライトアップ（ライトアップニンジャ）も実施しました。

■キックオフからプレイベントまで
フォーラムのキックオフとしてライトアップ候補地の視察へ京都を訪れたのは2016年11月。岡崎エリアと松原通を昼と夜で何度も往復し、歩行距離は驚威の15km。その後、今回の協力大学の先生方と詳細を詰め、4月26日に学生参加の街歩きオリエンテーションを行いました。京都の代表的な繁華街である四条通りから南下して木屋町を抜けるルート歩き、普段何気なく目している街灯や漏れ光など、何が光の英雄と犯罪者なのかを考える、照明探偵団としての第一歩となりました。（荒木友里）

■5/10 器具演習ワークショップ
フォーラム本番の一ヶ月前に各参加大学の先生と学生たちが京都造形芸術大学に集結しました。それぞれの大学がどのような街歩きを行い、どのようなライトアップを計画しているのかを発表。夜にはLPAのスタッフから様々な器具の特性や照明手法のレクチャーを受け、照明計画の実現に導く手掛かりを探りました。（岩永光樹）

■フォーラム本番スタート！
2017年のフォーラムは主に次の4つのコンテンツで構成されました。
①トークイベント
②学生ワークショップ
③ライトアップニンジャ
④パーティー

■トークイベント①6/8 18:00-20:30
プレゼンナイト『京都+光の文化遺産を語る』
@ 京都文化博物館 別館ホール
・学生プレゼンテーション

登壇者：京都造形芸術大学、京都大学建築学専攻居住空間学講座＋石田研究室、京都市立芸術大学環境デザイン研究室、京都工芸繊維大学阪田研究室

・光のプロフェッショナル7人のリレートーク
テーマ「Heritage」

スピーカー：面出薫、葛西玲子、Jan Eihed、Charles Stone、Lisbeth Skindbjerg、Christof Fielstette、Uno Lai

京都文化博物館で開催されたトークイベントは大学生による街歩き調査の発表からスタート。学生たちは京都の観光エリアからローカルエリアまで様々なエリアの光環境に対し、光の英雄か犯罪者か独自の考察をし、同時に改善案まで提案しました。門川京都市長による講評では学生たちの調査を称えつつ京都が抱えている光環境の問題点や今後の展望が話されました。後半のリレートークでは海外の探偵団メンバーがそれぞれに自国の「Heritageの照明」について7分間のプレゼンテーションを行いました。持ち時間の短い中で、バラエティーに富んだ内容をスピード感ある軽快なトークが続き、一瞬たりとも飽きさせない充実したトークイベントとなりました。
(岩永光樹)

■トークイベント② 6/10 16:00-18:00

『歴史都市の光－メキシコシティ、ベルグラード、マドリッド、京都』

@ ロームシアター京都

パークプラザ3階共通ロビー

スピーカー：Gustavo Aviles、Ignacio Valero、Aleksandra Stratimirovic

モデレーター：面出薫

街並み自体が歴史的な価値を持つメキシコシティ、マドリッド、ベオグラードの歴史遺産への照明の現状や問題点、役割をそれぞれ紹介。大切な文化遺産を夜の景観の重要な要素としてどのように取り入れていくかや京都の夜景への期待なども話されました。

100名ほどの参加者から積極的な質問も上がり会は盛況のうちに終了しました。
(東悟子)

■ 6/9 ワークショップとライトアップ実験

午前中はライトアップの班ごとに集まり、前日シンポジウムで発表した「京都の光の英雄／犯罪者と改善案」のディスカッション。京都らしい夜の景観とはどんなものなのかを、海外から参加の照明探偵団員も交えて意見交換をし、照明の役割などの造詣を深めました。

午後には、午前中の話し合いも踏まえながら、ライトアップ本番に向けての最終案の詰めを行いました。海外メンバーからの意見を聞くことで学生のオリジナル案にさらに深みが増したようでした。

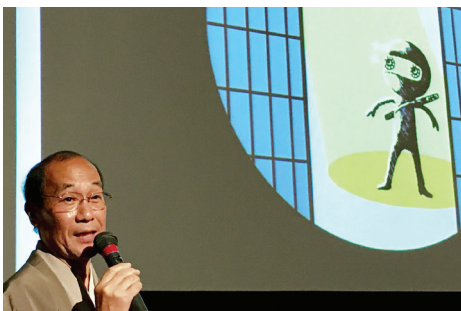
日没後に行われた現地での照明実験では、本番用の機材を使用してプロポーザル案を実際に現



トークイベント会場となった京都文化博物館別館ホール



学生による京都の光の英雄と犯罪者の発表が行われた



門川京都市長も参加 京都の夜の景観への展望を語られた



トークイベントでは各都市の遺産への照明について語られた



フォーラム2日目は班ごとのディスカッションでスタート



使用する機材の確認



午後は実際の実際の器具を使用しての実験



水に入っている調整も



演出効果を何度も確認



平安神宮は場所が広いので、使用する機材も大量

地で創り上げて光の効果を確認。思い描いていたイメージとは異なる迫力のある生の光の効果に学生達から驚きの声も聞こえてきました。照明器具の配置や照射角度、RGB のカラーライティングの色味に至るまで、探偵団メンバー主導のもと活発な意見交換と実験が行われ、翌日のライトアップ本番に向けた現場調整が深夜まで続きました。

また実験中は側を通る人から何のイベントが質問され、ライトアップイベントへの関心の高さもうかがえました。（池田俊一）

■ 6/10 ライトアップニンジャ

ライトアップ本番。班ごとに集合し、本番に向けての設営を行いました。前日全く調整が終わらないチームもあり、期待と不安、そして緊張が入り混じる中、本番がスタートしました。

1、松原通り

担当チーム：京都大学建築学専攻居住空間学講座 + 石田研究室

松原通りを担当したのは、事前に地域住民に向けてプレゼンテーションを行い、建物の所有者への挨拶など入念に準備を進めてきた京都大学チーム。烏丸通を挟み西側の3カ所（末富・aeru gojo と新玉津嶋神社）では鮮やかなカラーライティングを用い、東側の2カ所（今井邸・因幡薬師）は電球色をベースとし京都らしいライトアップが完成。青と緑に照らされた電柱が突如現れたり、篠笛の奏者に連れられ海原を連想させるプロジェクションを施された参道を歩くと、プレゼンテーションでは聴衆に驚きを与えました。（荒木友里）

2、平安神宮 + 応天門

担当チーム：京都工芸繊維大学阪田研究室

京都市立芸術大学環境デザイン研究室

砂利の中での器具運搬に加え、防犯センサー対応などに多くの汗を流した平安神宮チーム。応天門を挟んで、門前は京都市立芸術大学、境内は京都工芸繊維大学の学生がそれぞれ担当しました。社殿建築に興味津々の海外探偵団メンバーと学生と熱心に議論を重ね、最終案を決定。青色の松を両脇に、朱色が内側からにじみ出るような応天門をくぐると、青く染まった広場に並ぶキャンドルが視線を大極殿まで誘導。奥行きのある夜景を演出しました。社殿の朱色が引き立つような赤や、日本古来の青色については学生たちの希望の色となるまで調整を行いました。境内から立ち上る光柱を目印に、多くの人々が参拝に訪れ、静かなライトアップを楽しんでいる様子でした。（本多由実）

3、疏水 + 大鳥居 + 白川

京都造形芸術大学

京都市立芸術大学環境デザイン研究室

疏水・大鳥居のライトアップは京都造形芸術大学の学生達が計画。学生達は大鳥居と疏水をひ



因幡薬師前の参道 篠笛奏者にいざなわれ境内へと向かう



新玉津嶋神社 非日常の空間を演出



平安神宮ライトアップ



現場にて学生によるライトアップコンセプトの発表



探偵団メンバーによるライトアップの講評



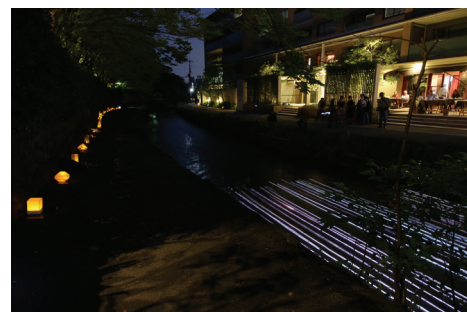
多くの方がライトアップを楽しんだ



普段は闇に沈んでいる疏水に照明を施す



解説に熱心に耳を傾けるメンバー



白川の穏やかな流れにあうあかりを演出

とつの景観として考え、その先にある平安神宮のライトアップとも連続性のあるライトアップを思案しました。仁王門通と並走する護岸のテクスチャをサーチライトでなめるように照らし、大鳥居は彩度のあるオレンジの光で陰影を演出し情緒的な光景をつくりました。講評の際は聴衆の誘導場所やプレゼンテーション中に光のオペレーションをみせるなどの工夫を凝らしました。（岩永光樹）

疏水からの支流・白川を担当するのはデザインを勉強し始めて2週間の京都市立芸術大学2年生。与えられた素材でオリジナルランタンを作り、川沿いにならべて落ち着いた雰囲気の良いライトアップを提案。空が暗くなり始めた頃、学生達がLEDキャンドルが灯されたランタンを並べると、低い色温度のゆらゆらした光が半透明の素材を通して、おぼろげでリズムカルな光が細い歩道を演出。世界初の試みとなるファイバーを白川に漂わせ“光の西陣織”と称し、白川に非日常な光をもたらしました。（黄思濤）

■パーティー・懇親会

会期中ご協力いただいた大学関係者、地元の方々、協賛会社の方々などをお招きし2種類のパーティーを催しました。

①ウェルカムパーティー

＠カフェアンデパンダン

どしゃぶりの中のバスツアーを終え、Welcome Partyの会場に到着。面出団長の挨拶後、メインスポンサーであるウシオライティングの椿社長からお言葉を頂きました。久しぶりに会うコアメンバーは再会を喜び、各大学の先生方、協賛メーカーとLPAのスタッフで顔合わせをしました。美味しい食事とお酒を頂き、フォーラム4日間への不安と期待を語り合いました。

②フェアウェルパーティー＠モダンテラス京都
今年のTNTフォーラムの最後のイベント。ダンスパフォーマンスによって幕を開けたFarewell Party、学生も大勢参加して、名残惜しそうに今回のイベントでのお互いの健闘や努力をたたえ合いました。皆の顔には疲労も見えましたが、満足した表情をしていたので、充実した3日間を過ごせたようでした。（黄思濤）

照明探偵団の本部がある日本での15年ぶりのフォーラム開催ということで、過去最大で内容の濃いもの、そして地元京都にとっても意義のあるものにするというスローガンのもと約1年に及び地道な下準備を経て、無事終了させることができました。ご協力いただきました関係者の皆さま、心より感謝申し上げます。夜景について語り合うプラットフォームを作るのが探偵団の目的。今回のイベントもそのきっかけになったのではないのでしょうか。（東悟子）



Welcome Partyの様子



最後のしめくくりFarewell Party お疲れ様でした

13th Annual Transnational Tanteidan(TNT) Forum in Kyoto

2017.06.08-06.10

Sun Young Hwang



Double decker bus tour



Welcome party with opening speech



Students presenting their lighting survey and proposal

Kyoto, a city literally has a meaning of 'capital city,' used to serve as a capital of Japan for centuries. This gives no surprise that city is full of 1600 over historical temples and sublime gardens attracting a number of overseas tourists.

13th TNT forum was held in this beautiful and historic city with a theme, 'Heritage' with 10 lighting experts and students from Kyoto University of Art & Design, Kyoto University School of Architecture Housing and Environmental Design + Ishida Lab, Kyoto City University of Arts Environmental Design Lab and Kyoto Institute of Technology Sakata Lab. The forum discussed for a better and more 'Kyoto' like lighting environment.

■ Day 0 (Closed Event)

TNT core members arrived in Kyoto from all over the world in the afternoon. After settling down, at 7pm, all gathered to go on a double

decker bus tour to see night lighting of Kyoto city through the pouring rain. Followed by one memorable bus ride which got us all wet, members headed down to 'Café Independents' for a dinner and welcome party. 'Café Independents' was located at one nice art-deco inspired building called 'Art Complex 1928' which is one of the cultural properties in Kyoto. Opening speech was given by Ushio and TNT core member, Ms. Kasai to give a good start to the forum and all enjoyed nice food and drinks.

■ Day 1. Orientation and Talk Event

First day kickstarted with an orientation and lighting proposal discussion between students and TNT members at the Museum of Kyoto, another important cultural property of Kyoto designed by architect, Kingo Tatsuno.

At 6pm, the forum was opened to public. Mr. Mende gave a brief overview of the purpose of TNT forum and introduced Mayor of Kyoto city,

TNT core members and professors of participating universities in Kyoto.

Students gave a thorough presentation including Kyoto lighting survey with selection of heroes and villains and proposed lighting scheme for Heian Jingu Shrine, Sosui Stream and Matsubara street in Kyoto.

After presentation by students, Mr. Kadokawa, Mayor of Kyoto, went out to stage and shared his view on Kyoto lightscape and pondered on methods to get rid of villains of lighting and encourage heroes of lighting. He concluded by saying that local government should work together with the residents and owners of the buildings to make better light environment of Kyoto.

The forum continued with non-stop relay talk with a topic of 'heritage lighting.' Each TNT core members presented using 20 slides.



Lighting proposal discussion



Talk Event, TNT member presentation at Rohm Theatre



Lighting Preparation



Lighting test at site



Light-up presentation@Matsubara Street

■ Day 2. Light-up Ninja Workshop

Having our light-up workshop schedule coinciding with Kyoto Music Festival event 'Okazaki Loops,' some of the cultural zones of Kyoto called 'Okazaki area' had been strategically chosen as light-up locations. Heian Jingu Shrine and Sosui stream areas including Torii Gate and Shirakawa river were selected to help regenerate and boost cultural experiences in Okazaki area. Although it is not part of Okazaki area, Matsubara street had also been selected with similar aim. The street, where you can find a stretch of historically important shops, are sadly being overlooked these days and students hoped to revive the street through the special light-ups.

Students and TNT members were divided into three teams.

Teams first gathered in a round table to brush up the light up proposal. Starting from lighting concept to feasibility of achieving desired lighting effect, under the lead of TNT members, the light-up plans were being detailed and actualized as the discussion goes deeper.

From 5pm, three teams moved to site to test lighting fixtures and effect. There happened unforeseen difficulties along the way. One of the residents living besides the Sosui stream complaining that she was not aware of this light up event near her place, search light fixtures were too heavy to carry, lighting effect is not delivering the concept.. On this day, we all needed to work flexibly with the condition given finding resolution on the spot. We all worked until late to polish lighting design for a big day.

■ Day 3. Talk Event, Light-Up Presentation, Farewell Party

Rohm Theatre, built as the first concert hall in Kyoto by Kunio Maekawa is now being utilised as the center of arts and culture in Kyoto.

Talk event was held at the 3rd floor of this Rohm theatre. Surrounded by bookshelves and Kyoto residents interested in 'lighting,' TNT members to share their own interpretations of heritage lighting with audiences.

After a heated discussion on heritage and Kyoto lighting, all proceeded onto bus to review light-up presentation at three different locations. With unusual and fun lighting, city has transformed overnight out from its mundane appearance and was surely catching a lot of attentions of many citizens in Kyoto. Some people were wondering what was happening on the day as we had too many search lights shining to the sky. Students at each area presented their lighting concept and shared hardships and stories during the site work. They had found themselves very proud for successfully completing a big project. TNT core members gave a congratulation and feedback to all students.

From preparation to execution stage, it was a long journey for both students and TNT members. To celebrate and summarise a successful event, students and TNT members gathered at the Kyoto Modern Terrace for a farewell party.

TNT forum and light-up event worked as a small platform to think about future of lighting in Kyoto. We all hope to see more of light



Light-up presentation@Matsubara Street



Light-up presentation@Oten-mon Gate

conscious people in Kyoto and unique but very pleasant lighting environment for this charming city to be realised in nearer future.

(Sun Young Hwang)

夜景ウォッチングツアー：八丈島

幻と消えた自然光体感ツアー 2017.07.02 東悟子

7月2～3日の1泊2日で組まれた八丈島ナイトウォッチングツアー。3年ぶりということもあり、団員は一同期待で胸を膨らませます。初夏の八丈島で東京では味わうことができない自然光を満喫に行った団員の末路はいかに。

ひかるキノコに蛍、熱帯雨林を通して降り注ぐ夏の太陽、海に落ちていく夕日に満点の星空。いろんな種類の自然光を体感できると聞き、今年の夜景ウォッチングツアーを八丈島に決定。梅雨真っただ中ではありましたが、当日は初夏の気持ちのいい晴天に恵まれました。東京では今年一番の暑さになるという予報も。7:30の羽田発のフライトに搭乗のため、参加メンバー12名は朝7:00に飛行機の搭乗口に集合。ウキウキ気分のはずのメンバーは口々に「飛ばないかもしれませんよ」「飛んでも羽田へ戻ってくる可能性があるそうですよ」と心配顔。フライト状況を知らせる案内板を見ると「調整中」の文字が。アナウンスでは出発はするものの八丈島の天候の状況によっては、帰帰する可能性があるのです承くださいとのこと。こんなに羽田は晴れているのに引き返すなんてことがあるのだろうか。メンバーは期待と不安半々に飛行機に乗り込みました。

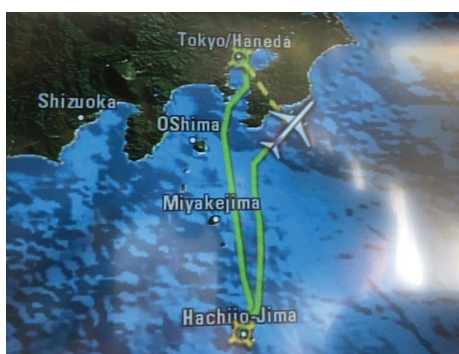
機内でもキャプテンが羽田に戻ってくる可能性がありますとの繰り返しのアナウンス。どうやら昨日も一日3本あるフライトすべてが欠航した様子。それでも飛行機は羽田空港を出発。富士山を眺めつつ、初島、大島、三宅島と続く伊豆諸島を見下ろしながら、雲はかかっているけど、天気はいいし視界も良好。きっと大丈夫だろうと思っていました。

いよいよ八丈島上空に差し掛かり、着陸態勢に入ったとのアナウンス。機内では拍手も置き、ほっと一安心。飛行機を降りてからの確認をしている最中、機首があがり再び上昇。濃い霧のため滑走路が見つけられず、このまま上空にて様子をうかがうという機内アナウンスが流れました。窓の外をみると絶望的に厚い雲。なぜか島の上だけにどっかと雲が鎮座して少しのことではびくともしなそうでした。飛行機は何回か島を旋回した後、今日一日雲が晴れることがないだろうという気象台の情報の下、羽田に引き返すことに。島の真上まで行って、周りも晴れているのに着陸できないという悲しい結果に終わってしまいました。

羽田に戻り諦めきれない一同はとりあえず次の便がどうなるか見届けることに。空港のフードコートで慰安会をしていると次のフライトも欠航という案内が。どうやらこの季節の八丈島は雲がなかなか晴れないようで、この時は5日連続すべての便が欠航になったようでした。どうやら近くて遠い島だったようです。今回は幻に終わってしまった八丈島自然光体感ツアーですが、またリベンジしたいと決意を固めたメンバー一同でした。（東悟子）



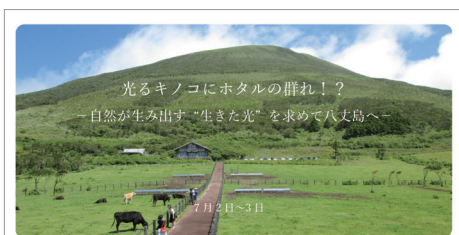
眼下にあるはずの八丈島は雲と霧にすっぽり覆われて、影も形もみえない



こんな運行ルートみたことありますか



他の島には雲はあるものの、島は確認できる



ふと空を見上げた時に見える星々の光。
何気なく足元に落ちている木漏れ日。
自然が生み出す光は、私たちを無条件に感動させます。
今回の期間限定ツアーは、都会の光を一度忘れて・・・
自然が生み出す光のドラマを求め、八丈島を調査しましょう。



森の小さな妖精と呼ばれる光るキノコ。幻想的なその姿は必見！
空気の綺麗な八丈島では、一年を通してタナゴがサマのように満点の星空が見える！
八丈島の「ホタル本舗」は、ヘイケガタムシの名所となっている。
自然豊かな森の中では、美しい木漏れ日を観察することができる。

期日：7月2日～3日 予算：3万円～4万5千円		(予算の詳細については後日連絡いたします)	
プラン案		1日目	2日目
(※参加に際してはホテルへの宿泊となります) ※参加者の飛行機代は別途 ※現地ではレンタルカーで移動する予定です	7:30～8:25	飛行機 (羽田～八丈島)	グループに分れて行動
	9:30～15:00	八丈島での自然観察 ・ダイビング機	AM 森 (ボットホール) 観察
	15:00～18:00	ホテルチェックイン、休憩	12:00～13:00 昼食
	18:00～20:00	日没を前に真境岬へ、その後は温泉	14:00～14:55 飛行機 (八丈島～羽田)
	20:00～	夕食後、天体観測	



次のフライトも決行が決定



羽田空港にて慰労会。絶対リベンジ！

ツアーの告知用チラシ

【世界照明探偵団フォーラム 2017 は以下の各関係団体、
各社のご協力により実施されました。】

■主催：照明探偵団

■共催：

OKAZAKI LOOPS 実行委員会

MBS

松原通界隈活性化活動プロジェクト委員会

■後援：京都市

■協力：

京都造形芸術大学

京都大学建築学専攻居住空間学講座＋石田研究室

京都市立芸術大学環境デザイン研究室

京都工芸繊維大学阪田研究室

■協賛：

ウシオライティング株式会社

マックスレイ株式会社

ALTO CO., LTD.

株式会社 Luci

iGuzzini

We-ef Lighting

Lamp

ERCO Lighting Pte. Ltd.

Lutron Electronics

【照明探偵団の活動は以下の 20 社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社

岩崎電気株式会社

カラーキネティクス・ジャパン株式会社

株式会社遠藤照明

パナソニック株式会社

ERCO / ライトアンドリヒト株式会社

大光電機株式会社

株式会社 Modulex

株式会社 YAMAGIWA

マックスレイ株式会社

ウシオライティングジャパン株式会社

DN ライティング株式会社

東芝ライテック株式会社

コイズミ照明株式会社

マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社

ルイスポールセン ジャパン株式会社

湘南工作販売株式会社

トキ・コーポレーション株式会社

山田照明株式会社

三菱電機照明株式会社



探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！

お気軽に事務局までご連絡ください。